

保坂のぶと

ほさか

「いのちの政治」を前へ

活動レポート 2023年4月特別号



この4月、
実現しました!

区立小中学校の **給食費無償化**

高校生までの **医療費無償化**

国の不足分を **出産一時金5万円**



発行:保坂展人と
元気印の会
〒156-0043
世田谷区松原 6-26-15
つるやビル201
TEL: 03-6379-2107
FAX: 03-6379-2108
HP: <https://www.hosaka.gr.jp/>
Mail: hosakanobuto@tenor.ocn.ne.jp

最新情報は 検索で公式 HP へ



住民によりそう「参加と協働」による3つの政策

1 いのち最優先で、福祉と災害対策を充実

- ▶ 新型コロナ対策は、「世田谷モデル」で高齢者施設と区民のいのちを守る
- ▶ 28カ所の「福祉の相談窓口」を活かし、障害者・難病者の生活・就労支援
- ▶ 新庁舎に「災害対策本部」を移転し、機能強化
- ▶ グリーンインフラで、大地とみどりの保水力を高める水害対策へ
- ▶ 2030年度 57.1% 温室効果ガスを削減、2050年の排出実質ゼロをめざす
※2013年度比

2 子育て支援、切れ目なく実現

- ▶ 2023年度、区立小中学校の給食費無償化
- ▶ 4月、出産一時金5万円を区独自助成、高校生までの医療費無償化
- ▶ 保育の質を維持し、待機児童ゼロ。学童・新BOPを19時まで延長
- ▶ 医療的ケア児・障害児と共に学ぶ、真のインクルーシブ教育をめざす
- ▶ 児童館・青少年交流センター拡充、オルタナティブスクール構想具体化

3 地域経済と街づくりを区民参加で

- ▶ 元世田谷ものづくり学校を、起業・交流のワクワクする拠点へ
- ▶ 下北沢から二子玉川、三軒茶屋で次世代につなぐ住民参加の街づくり
- ▶ 「せたがやPay」を活用し、地域産業と区民生活を応援
- ▶ 上用賀公園拡張用地を防災・スポーツ拠点へ、総合運動場等のリニューアル推進
- ▶ 新たな区民会館ホールを機に、「演劇・美術・音楽」の文化芸術政策を充実

私は、車座集会で区民の声を聞くことから仕事を始めました。
「介護・福祉」の必要に直面した時にワンストップで相談を受ける
「福祉の相談窓口」を区内28カ所のまちづくりセンターに配置しました。

3年間の新型コロナウイルス感染症の渦中では、
世田谷区独自の高齢者施設への積極的な検査によりクラスターを抑え、
オンライン診療センター支援に乗り出して、国をリードしました。

次の重点的で最優先の課題は、学校教育の刷新です。
世田谷の学校を支える「世田谷区採用の教員確保」に踏み切ります。

この3年間、全国的に不登校の子どもたちが激増しています。

悩んでいる子どもたちの居場所や不登校特例校も実現しました。

一方で、通いたくなる学校にするため、「学びの質」をガラリと変える先端的な
オルタナティブスクールを準備して、公立学校全体の底上げにつなげます。

保坂展人

区役所「工事凍結」は大混乱、住宅街に高層ビルはミスマッチ

「区民負担ゼロに」というチラシが区内で大量配布されています。区役所の「工事凍結」で設計変更、「区長権限で建築条件を大幅緩和出来る」という主張です。「容積率を300%から600%へ拡大、高さ規制45mも超える」14階建て以上の高層マンションにして収益を稼ぎ、民間資金を入れるという構想です。

お手本にしている渋谷区は商業地域で500%、豊島区は市街地再開発事業により800%となっています。一方、世田谷区役所の建設現場は第二種住居地域(容積率300%・高さ制限45m)で条件がまるで違います。



①良好な住宅街の街並みを乱す高層ビルに住民の理解は得られません

渋谷区のように高層ビルが建設出来る商業地域は、世田谷区では三軒茶屋と二子玉川です。区役所周辺は世田谷区役所も含む「地区計画」があり、「区長権限」をふりかざしても、計画変更をするためには住民合意と東京都との協議が必要となります。現在、建設中の本庁舎工事を止めて地区計画を変更する合理的理由は見当たりません。

②「工事凍結」は大混乱を生み、区民サービスに影響が出ます

2年前に着工した本庁舎工事は、本年10月には第1期竣工予定です。仮に残る工期の「工事凍結」で設計のやり直しを始めると、施工事業者への損害賠償、仮庁舎の賃貸借期間延長等がともない、しかも建築条件緩和の展望も困難なことから、改築時の一時的な区民サービスの分散も長期化し、視界不良のままいたずらに時間を費やすことになります。

③区民参加と熟議を重ねた経過を尊重するべきです

本庁舎整備は前区長から引き継いだ課題で、長い時間をかけて、区民参加で議論が積み上げられてきました。基本構想検討から始め、建築家の隈研吾氏や坂茂氏を含めた5事業者から設計者公開審査の結果で決まった案が現在、工事中の本庁舎です。基本設計までに3年、施工者選定までに2年の時間を費やしています。すでに多大な労力と予算がかかっています。

4年間で公約、実現しました！

▶ 地域福祉の世田谷モデルを！

- ☑ 保健・医療・福祉の拠点の整備 → 2020年4月「うめとびあ」開設
- ☑ 認知症対策の条例を創る → 2020年「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」制定
- ☑ 特別養護老人ホーム・認知症グループホーム等の整備 → 12年間で34から87施設へ、特養待機者数を2,464人から1,146人へ約半減
- ☑ 障害者施設・グループホームの整備 → 「地域障害者相談支援センター」充実
障害者通所施設を12年間で87から196施設、グループホーム22から69施設へ
- ☑ 医療的ケア児の保育施設整備 → 2022年「ほわわ花見堂」(児童発達支援) 開設

▶ 子ども・若者をとことん応援します！

- ☑ 児童相談所の設置 → 2020年4月、23区初となる「世田谷区児童相談所」開設
- ☑ 保育待機児童ゼロ → 同年4月、待機児童ゼロ。認可保育園等12年間で198から368園
- ☑ 教育総合センター等を整備 → 2021年12月「教育総合センター」開設、
ほっとスクール(希望丘・城山)・不登校特例校「ねいろ」を新設拡充

▶ 災害に強く、緑あふれる美しい街！ ▶ 世田谷発、エネルギー革命！

- ☑ 豪雨対策のためのグリーンインフラ推進、公園拡張 → シモキタ雨庭広場(2022年)、玉川野毛町公園拡張(2025年開園予定)・上戸賀公園拡張(2028年予定)・北鳥山7丁目緑地(2029年予定)と合わせて、今後9haの公園を大規模整備中
- ☑ 原発ゼロ、自然エネルギーの活用 → 区役所本庁舎ほか区施設で自然エネルギー導入拡大中、「せたがや版 RE100」推進、自治体間連携により、地方と世田谷を結ぶ自然エネルギー活用を実現

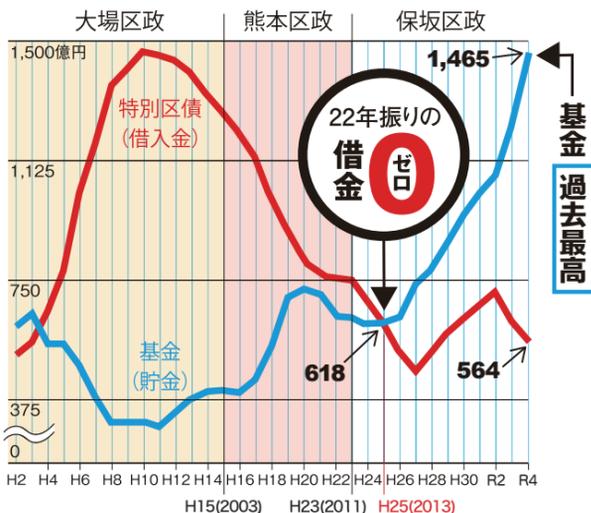
▶ 地域産業と職住近接を応援します！

- ☑ 子どもの近くで働くことのできるワークスペース事業の拡大 → 「ワークスペースひろば型」5カ所で開設
- ☑ 区内企業の経営支援 → 2021年「せたがや Pay」(世田谷区商店街振興組合連合会) 支援開始、100億円規模へ
- ☑ 建設産業を重要な都市産業と位置づけ、地域内循環による振興 → 2022年「世田谷区地域経済の持続可能な発展条例」制定



※世田谷区 HP より

【特別区債残高と基金残高】



持続可能な「財政基盤」を未来に生かします

この4月、世田谷区は今年度の区立小・中学校の「給食費無償化」を実現しました。また、出産費助成として、「出産一時金」に区独自の5万円を出します。「高校生世代までの医療費無償化」にも踏み切り、いずれも所得制限を撤廃しています。

← グラフのように、「赤字財政」を前区長から引き継ぎましたが、2013年に区の借金(区債)を貯金(積立金)が上回る事実上の「借金ゼロ」を実現しました。以後、10年間に

わたる健全財政を維持して、直近では区の貯金(積立金)は1,465億円と倍増しました。

エレベーターがなく老朽化していた「まちづくりセンター」14カ所を改築、学校改築・改修を進めると共に、うめとびあ(2020年)、玉川総合支所(2021年)、教育総合センター(2022年)などの拠点施設を整備し、60年ぶりに、本庁舎整備工事に着手しました。

次世代にツケをまわさずに、持続可能な財政基盤を築き、未来に生かします。

私からも、まちの声

保坂さんを応援しています！

下北沢再開発は大きな道路と商業ビルになる予定です。保坂区長になって、住民と鉄道会社と会議を重ね、大きく変わりました。

せた Pay は店が手数料を払わなくて良いので助かります！キャンペーンの時はお客さんが一品多く注文してくれたりして、嬉しかったです。

コロナ禍、世田谷区は流行りはじめのころから検査や発熱外来、薬等、いち早く対応してくれて、ありがたいと思います。

沢山の「子育て支援」のサービスを利用しています。おでかけひろばに通い、地域子育て支援コーディネーターさんに相談して、今の仲間にも出会えました！

小学生の頃「児童館」が大好きでした。子どもを尊重してくれ、適度な大人の目もある素晴らしい場所。今は児童館の補助スタッフとして子どもと遊ぶのが楽しいです。

明治大学教授 小林正美さん

お肉ダイニングバー Gray店主 岡部大資さん

医療従事者 石坂悦子さん

自主保育 野毛風の子 鎌田みずすずさん

大学生 松山航輝さん

保坂のぶとプロフィール

音楽プロデューサー
国会議員
ジャーナリスト

- 1955年11月26日、宮城県仙台市生まれ。父の転勤で5歳で東京、世田谷区の幼稚園入園。
- 16歳で裁判の原告になる(内申書裁判)。
- 21歳で沖縄へ行き、歌手の喜納昌吉さんに出会い、自主コンサートを企画。
- デビュー前のザ・ブルーハーツをイベントに出演させる。
- 教育ジャーナリストになり、「不登校」「いじめ」「校内暴力」問題に取り組む。
- 1996年、衆議院選挙に立候補、初当選。11年間で国会質問546回。
- 2011年、東日本大震災での被災地支援がきっかけとなり世田谷区長選に立候補、初当選。
- 2019年世田谷区長に3選。

読書は30冊以上も!

「NO!で政治は変えられない」「こんな政権なら乗れる」ほか多数